

生命科学領域の中で「分子生物学」は比較的新しい分野ですが、その発展は目覚ましく、社会にも非常に貢献しています。一方、分子生物学会に属する若手研究者がおかれる状況は男女ともに、今なお、決して満足のいくものではないことも周知の事実です。

第18期（2013年）から新しく始まった「キャリアパス委員会」では、若手研究者を取り巻く数多くの問題を、男女共に提起・分析し、軽減そして解消することを目指します。

若手教育活動と より働きやすい環境を目指して

2014	報告：分子生物学会会員による回答結果の分析 「第3回日本分子生物学会男女共同参画実態調査」
2013	男女共同参画委員会は若手教育問題WGと共に、活動をキャリアパス委員会へ引継ぐ
2009	年会における演題投稿者の女性比率調査開始（以降毎回実施）
2008	報告：分子生物学会会員による回答結果の分析 「バイオ系専門職における男女共同参画実態の大規模調査分析」
2007	要望「日本学術振興会・特別研究員-RPD制度の更なる拡充、推移と、および弾力的運用等に関する要望」：日本学術振興会へ 若手教育問題WG発足 第1回若手教育シンポジウムを開催（以降毎回開催）
2006	男女共同参画WG→委員会へ昇格 RPD制度に関するwebアンケート
2005	提言「ライフサイエンス分野における男女共同参画の推進」・「科学者・技術者の人材のさらなる活用を図る男女共同参画制度の整備について」：内閣府、文部科学省、総合科学技術会議事務局へ 報告「科学者-技術者の人材のさらなる活用を図る男女共同参画制度の整備について-理工学系の現状に基づく提言-」：日本学術会議へ 特別研究員RPD制度の設置を目指して
2004	WEB公聴会「科学技術基本計画」および「男女共同参画基本計画」改訂作業への意見集約 提言「子育て支援型研究員制度」
2002	男女共同参画WG発足 年会における第1回男女共同参画WSを開催（以降毎回開催）
2001	年会保育室設置WGスタート 年会保育室設置（以降毎回設置）

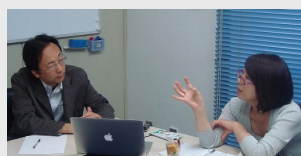
2014年の委員会活動

●年会での主催企画：キャリアパス委員会主催セミナー2014

- ・『博士の多様なキャリアパスを切り開く』（11月26日）
パシフィコ横浜 会議センター3階 301（第2会場）
- ・『池上彰と考える
—これでいいのか日本の生命科学研究—』（11月27日）
パシフィコ横浜 会議センター1階 メインホール（第1会場）

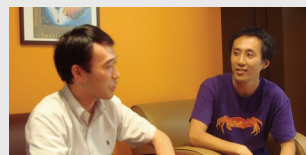
- キャリアパス委員による対談（会報掲載）
- 年会の演題投稿者における属性調査
- 年会託児室利用者へのアンケート実施
- 大規模アンケート回答結果の解析
- 男女共同参画学協会連絡会に参画
- 「女子中高生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～」
（主催：国立女性教育会館）実験・実習参加協力

キャリアパス対談



第1回
小林 武彦 × 塩見美喜子

第2回
東山 哲也 × 五島 剛太



第3回
岩崎 渉 × 井関 祥子

第4回
白髭 克彦 × 小野 弥子



第5回
佐藤 健 × 柳田 素子

第6回
斎藤 通紀 × 石井 優



対談は学会ホームページで
ご覧いただけます。
（第6回は会報2015年2月号）